

人権を擁護する若い映画監督

2025/03/10

国連人権高等弁務官事務所

「私の回りの何気ない日常を撮影することで、並外れた解決策につながる会話を見い出そうとしています」と、パキスタンの若手映画監督で国連人権映画コンテストの受賞者の一人である Eman Munir は述べた。このコンテストは、自分たちのコミュニティに影響を及ぼす重要な人権問題を創造的に探求し主張していくことを奨励するために始められた。コンテストは、[国連西南アジア・アラブ地域人権研修・文書センター](#)が主催し、22 のアラブ諸国とアフガニスタン、パキスタン、イランに開かれている。合計 28 作品（1 作品 5 分）の応募があり、10 人のファイナリストと 2 人の受賞者が選ばれた。Munir の受賞作品『Lovely Flowers』は、パキスタンでは問題視されていない学校に通わない子どもたちの一日を撮影し、教育を受ける権利と尊厳ある生活を強調している。「当たり前のように学校に行く私たちがいる一方で、家族のために働いている子どもたちがいる」。「しかし、私が一番届けたいのは、子どもたちを通して映し出される希望と幸せのメッセージである」。